Sep.5, 2025

MGGC

2025 NO.2

Miyagi Goodwill Guide Club（宮城善意通訳者の会）会報
（HP ; http://mggc2019.masa-mune.jp/index.htm）

---------- 目次 ----------

ガイド報告

仙台国際音楽コンクール（SIMC）でのボランティア活動

七夕通訳ボランティア

集計

初参加者からの投稿

高校生からの投稿

事務局からのお知らせ

ガイド報告

ハワイからの 2 組の夫婦をガイドして

松田 昭二

今回のガイドの依頼は Ms. Chiaki Look さんからであった。Chiaki さんとご主人、ご主人の妹さん夫婦 4 人のガイドであった。Chiaki さんは、日本で生まれ、10 歳からハワイで生活し、簡単な日本語が話せるとあった。それもそのはず、ハワイの公立高校で、34 年間日本語教師として勤務。現在も週 2 日ほど非常勤で教えているそうだ。

瑞鳳殿にてゲスト 4 人と

Chiaki さんら 4 人は、数えきれないほど日本に来ていると言う。生徒を連れて、九州に行ったこともあると言う。そして、いつも何か違った新しいことを発見していると言う。そして、今回仙台を選んだのも、4 人のうち、誰も仙台に来たことがなかったからだと言っている。

先ずは、2018 年の S さんのガイド報告を参考に、5 月 21 日、ガイド 3 日前に仙台の地図とおおまかなスケジュールを持って、打ち合わせに行った。さて、5 月 24 日、ガイド当日、今回は、鈴木澄男さんと一緒に初めてレンタカーを使ってのガイドでした。土・日は、るーぷるバスでは、待ち時間が多く、しかもぎゅうぎゅう詰めの状況、市の中心部だけではなく、東日本大震災の遺構、仙台観音も訪れることを考えて、公共交通機関ではなく、レンタカーとなった。実を言うとこれも鈴木さんの提案でした。スケジュールは、瑞鳳殿、仙台市博物館、（仙台城址）、東日本大震災の遺構の荒浜小学校、仙台観音、大崎八幡神社、メディアテーク。公共交通機関やタクシーではできない、レンタカーだからこそできる案内であったと思う。

瑞鳳殿では、5 月 24 日が政宗公の命日で、法要を行っていた。伊達家の菩提寺や関係寺院による読経。仙台藩ゆかりの方々などの関係者が参列しており、それらを資料館の脇から見ることができたが、中に入ることはできなかった。そのため、感仙殿のところでの、記念撮影となった。

仙台市博物館では、仙台の歴史、美術、文化に関する資料、ユネスコ「世界の記憶」国宝の慶長遣欧使節関係資料、伊達政宗や支倉常長のこと、仙台藩の６２万石のこと、江戸時代作成のその地図、浮世絵などなどをじっくりと見ていただいた。最後に、プレイルームで、政宗の兜をかぶって写真を撮った。ああ、そうそう、博物館でやったことの一つは、行ってすぐ、レストランの予約を取っておき、昼食を待つことなく食べられたことでした。

仙台城址は、あとのスケジュールのことを考えて、カットした。東日本大震災遺構の荒浜小学校は、以前よりは、整備されていて、英語のパンフレットやら、英語による説明、ビデオによる説明が完備されており、ゆっくりと震災のことを学ぶことができた。

仙台観音像は、イオンショッピングセンター側からではなく、1 つ東側の道路（路線バス）の通りから登って行くと、行く手に大きな観音像が現れる。これは、案内する価値があると思った。

大崎八幡宮では、北側の駐車場に車を止めて、国宝の社殿を拝む。その後、ゆっくりと石段を降りて、赤い鳥居のある４８号線沿いからまた車に乗った。大崎八幡宮の後、メディアテークを車から見て、ホテルへ戻りました。

仙台市博物館で

最後に、今回、いっしょにガイドした鈴木さんについて述べておきたい。とにかく、鈴木さんは、車を運転しながらも、良く英語を話す。

「地震による津波が川を遡ること」を Climb up と表現したが、よくわかる表現だと思いました。

「フランス大統領がトランプ大統領に、（アメリカは自由のない国だから）、自由の女神を返して欲しいと言ったとか。」

こんなジョークを次々と言いながら、とにかく良く英語が飛び出す。車を運転しながらのガイドは、大変だったと思いますが、私が知らないいろんな知識が次から次と出て来る。とにかくよく英語が出て来るもんだと感心しました。

翌日の新幹線の切符を買うことになり、仙台駅ではなく、北仙台駅で買うことになったのも、鈴木さんの提案でした。待つことなく、すぐに買うことができた。しかも、Chiaki さんの日本語は完璧でした。

さて、私たちが切符を買いに行っている間、鈴木さんが車の中で雑談していて、「日本は裁判を起こす人が少ないと聞くが、なぜだ？」と質問されたそうです。そして、鈴木さんの専門は、法律ですが、この辺りは勉強してなくてならないと思ったそうです。結局、鈴木さんは、「日本人は基本的に争いごとが嫌いなんだ。」と答えたそうです。

さらに、最後に、Chiaki さんからの’Thank you letter’を載せて終わりにします。

Dear Mr. Matsuda,
We had a wonderful time in Sendai thanks to you and Mr. Suzuki.
We learned so much more and went to so many more places than had we gone on our own.
Arahama Elementary School was very emotional and touching for everyone.
Again thank you for everything and please come to Hawaii and let me know when you do.

Best regards to Mr. Suzuki.
Aloha,
Chiaki Look

仙台国際音楽コンクール（SIMC）

MGGC メンバーの活動概要

伊藤 卓雄

第 9 回仙台国際音楽コンクールが 5 月 24 日から 6 月 29 日まで開催されました（バイオリン部門が 5 月 24 日～6 月 8 日、ピアノ部門が 6 月 14 日～6 月 29 日）。当会からは、佐々、佐藤（わ）、成毛そして私、伊藤の 4 名が出場者サポート部門のボランティアとして運営に協力しました。それぞれの活動内容と各位の感想を以下に略記します。

佐々：会場受付および日本文化体験イベントでの通訳を担当。

イタリア出身の V さんの広報誌インタビューを翻訳。音楽性の将来性より善良な人になりたいとの感想が深く印象に残った。日本文化の書道は、名前に漢字に当てて書くのが西欧人には特に人気。筆を握るのも初体験、とても楽しそうだった。今回より受付会場が 1 階演奏会場真向かいに設置され、多くの方が演奏聞く前に立ち寄り、沢山の人で賑わった。

佐藤（わ）：学校訪問ミニコンサートでの演奏者アテンド、交流サロンの運営を担当。

学校訪問ミニコンサートでは、バイオリン部門は蒲町小学校にオーストラリア人のリアン・マガウアンさんをお連れしました。彼女は他にも参加者がいると勘違いして曲数を少なくして申し訳ないとして、その場で二曲追加してくれました。ピアニストに渡す楽譜をわずか 5 分で用意できたのは、奇跡でした。

ピアノ部門は旭丘小学校で、日本人の森永冬香さんとイタリア人のクラウディオ・ベッラさんをおつれしました。目の前で聞く迫力満点のピアノ演奏に子どもたちも大いに盛り上がって、終わった後の質問タイムでは、手が次々あがり大興奮の中コンサートが終了しました。子どもたちにとって、貴重な経験になったとおもいます。

成毛：場内アナウンスと交流サロンを担当。

交流サロンを担当したのは 1 回だけで後は全て陰アナと呼ばれる場内アナウンスに配置され、話し相手がいないので寂しかったです。でも考えてみると、前回のコンクールはまだまだコロナの脅威が叫ばれていた頃の事だったので、今回安心して参加していただいた新ボランティアさんが増えた結果の割り当だったのだろうと推測されます。良かったと思った方がいいかもですね。お疲れ様でした。

伊藤：学校訪問ミニコンサートでの演奏者アテンドと日本文化体験イベントを担当。

八乙女小学校に二人のバイオリニスト、ルクセンブルグのグリソーさんとアメリカのブランドンさんをお連れしました。前回に続き 2 回目のアテンドです。そのときも感じたことですが、本格的なクラシック音楽（英語ではクラシカル音楽らしい）に接したときの子供達の驚きの表情が本当に印象的でした。

日本文化体験では、日本の伝統的なおもちゃであるけん玉を紹介しました。さすがに外国の方には難しかったようで、一つの皿に乗せるという初歩の技でもクリアした方は少なかったです。

今回参加の 4 人（バイオリン部門のさよならパーティで）

佐藤（わ）さんは、上記に加えてボランティアグループのリーダーの立場で計画段階から参画し、事前研修の計画、運営、多くのボランティアのシフト希望の調整等の面倒な作業に取り組み、コンクールの運営に大きく貢献しました。

このコンクールは3年に1度開催されるもので、次回は2028年となります。今回、事務局からのお知らせとしてメール等で皆さんにボランティア募集の案内を送りましたが、参加は上記の4名でした。次回は、より多くの会員が募集に応じてくれることを期待します。

七夕通訳ボランティア

活動集計

後藤 和博

みなさん、記録的な猛暑（酷暑）の中、ご協力ありがとうございました。今年の案内の報告です。

集計表を次ページ以降の2ページにしめしました。今年は仙台駅と勾当台公園2カ所でしたので、個別に集計しています。報告には、夏休みボランティア体験高校生の案内協力分も含めています。今年は、438人という、歴代2番目に多い人数への案内となりました(2023年から400名を超えており、昨年は565名でした)。

(*)七夕に関する案内は、（パンフ・うちわ）、ホテル・宿泊の問い合わせ、るーぷるバス、ナイトイベント、七夕行事の意味、コインロッカー、手荷物預かり所の場所などでした。勾当台公園では、特に七夕短冊へ願いを書き笹の葉に取り付けるのが好評だったとのことです。

(*)スペースの関係で（2）勾当台公園、(1)仙台駅、の順に表示します。

2) 国別集計（勾当台公園案内所）

	国　名	8月6日	8月7日	8月8日	合 計（人）
1	アメリカ	4	6	6	16
2	台湾	16			16
3	フランス	3	2	2	7
6	ドイツ			3	3
7	イタリア		4		4
8	イギリス	3	2	1	6
9	スペイン		2	1	3
11	カナダ			3	3
12	スウェーデン				0
13	シンガポール	1			1
14	マレーシア				0
15	オーストラリア	1			1
17	ニュージーランド				0
20	イスラエル	2			2
21	ブラジル			2	2
合計		**30**	**16**	**18**	**64**

【案内人数内訳】（勾当台公園）

内　容	6　日	7　日	8　日	合計（人）
観光	26	16	15	57
宿泊	0	0	6	6
その他	4	0	2	6
合　計	**30**	**16**	**23**	**69**

1) 国別集計（仙台駅案内所）

	国　名	8月6日	8月7日	8月8日	合 計（人）
1	アメリカ	26	11	8	45
2	台湾	24	5	10	39
3	フランス	18	13	11	42
4	中国	17	19	4	40
5	ドイツ	13	10	3	26
6	イタリア	9	8	22	39
7	イギリス	8	8	1	17
8	香港	6	5	15	26
9	メキシコ	6	0		6
10	カナダ	5	1		6
11	オーストラリア	5	0		5
12	オランダ	4	10		14
13	フィンランド	3	0	2	5
14	スウェーデン	2	1		3
15	インドネシア	2	2		4
16	ニュージーラン	2	1		3
17	スペイン	1	9		10
18	シンガポール	1	0	2	3
19	マレーシア	1	7	2	10
20	ロシア	1			1
21	エジプト	1	0		1
22	ケニア	1	0		1
23	エストニア	1	0		1
24	韓国	0	3		3
25	イスラエル	0	4		4
26	バングラデシュ	0	0	2	2
27	キプロス	0	0	1	1
28	チェコ	0	1		1
29	ポーランド	0	1		1
30	ブルネイ	0	1		1
31	ベルギー	0	2		2
32	フィリピン	0	4		4
33	ネパール	0	2		2
34	ポルトガル	0	2		2
35	スリランカ	0		2	2
36	デンマーク	0		2	2
合計		**157**	**130**	**87**	**374**

【案内人数内訳】（仙台駅）

内　容	6　日	7　日	8　日	合 計（人）
観光	140	103	80	323
宿泊	9	11	2	22
その他	8	16	5	29
合　計	**157**	**130**	**87**	**374**

初参加者からの投稿

2025 年仙台七夕祭りボランティア通訳に参加して

蛯名 郁矢

昨年から MGGC に登録していたのですが、活動参加は忘年会のみという状況でしたので、今年こそはとチャンスをうかがっていたところ、七夕ボランティア最終日の 8 月 8 日（金）に都合が合い、初参加が叶いました。14 時～18 時まで務めさせていただきました。連続 4 時間ですので、少し長いかなと開始前は思いましたが、始まってみると、あっという間とまでは言いませんが、体感的にはそれほど長くは感じず、楽しみながら活動に参加することができました。

仙台は地元で、MGGC に登録するまではあまり観光地として捉えることはありませんでしたが、今回観光案内ブースに立ってみて、大勢の方々が様々な目的で仙台を訪れているということを改めて実感しました。日本国内だけでなく、海外からの観光客も少なくないことも含めて、仙台への来訪者の様子は、ニュースや数字で見てはいましたが、実際にそれを体感する機会はありませんでした。そのため、仙台駅で多くの人々の行き来を目の当たりにするだけでも、かなり新鮮な体験となりました。

対応した内容で最も多かったのは、「七夕はどこで見ることができるのか」という質問でした。根本的な質問なのですが、観光案内不慣れな私にとっては、最も印象的な質問でもありました。初めての土地で、駅に降り立った直後、どちらに進むのか。まったく土地勘のない場所では、スマホだけを頼りに歩くのはなかなかストレスのかかることです。そうした状況で案内所に来て場所を尋ねるわけですから、このファーストコンタクトが仙台の印象を決めるかもという気持ちで、できる限り丁寧な対応を心がけました。また、ネットでは調べきれないような、細かな、特定的な質問をされることがままありました。例えば、「（ある限定販売の品物を）いつどこで買えるか」、「～の露店はどこにあるのか」、「出発まであと～時間あるけど、どこでなにをしたらよいか」といったような質問です。一緒にブースに入っていた方々に助けていただき、対応しました。ガイドの難しさとやり甲斐を感じさせてくれる機会でした。

今回参加してみての反省点もいくつかあります。まず、もう少し仙台観光情報を予習しておくべきだったということです。日々変化していく仙台（だけでなく宮城全体もですが）にこれまで以上に注意を払っていきたいと思いました。それから、そもそも七夕を自分でももっとよく見ておくべきだったかなとも思いました。先日、青森出身で仙台にもゆかりのある、あるミュージシャンが、ラジオ番組において、東北地方で夏祭りが始まってきたという話の流れの中で、「年齢を重ねてきて、仙台七夕祭りという『静の祭り』の魅力が分かるようになってきた」という主旨の話をしていたのを思い出しました。時間とともに、仙台だけでなく、私自身も変化していきますので、様々な機会を捉えて、自分自身の心身の update のために経験を重ねることの大切さを改めて感じました。　なにはともあれ、ようやく MGGC に参加でき、有意義な機会となりました。

仙台七夕での通訳ボランティアを通して

三浦 奈名美

この夏、仙台七夕まつりで通訳ボランティアを経験した。外国から訪れる観光客の方々に道案内をしたり、七夕の由来を説明したりと、多くの交流の機会があった。言葉が通じて笑顔を返していただ

けた瞬間はとても嬉しく、国や文化を越えて気持ちがつながることを実感できた。身ぶりや表情を交えながら伝えることで、言語の壁は意外と低くなるのだと改めて感じた。

駅前ブースでの対応

一方で、道案内の中で課題も見えてきた。特に仙台駅は表示が分かりにくく、英語の案内も極端に少ないため、外国の方が迷いやすいと感じた。案内板や掲示の改善は、観光都市を目指すうえで重要な課題だと思う。

華やかな七夕飾りを一緒に楽しんでいただきながら、仙台の魅力を伝えられたことは大きな喜びだった。今回の体験を通して得た気づきを、今後の地域づくりや国際交流に活かしていきたい。

協力してくれた高校生からの投稿

ボランティアに参加して

M.O.

学校の掲示板で夏ボランティアのチラシを見つけたとき、普段できない経験ができるのではと思い、興味を持ちました。すぐにチラシを手に取り、QR コードを読み込んで、活動内容を調べました。そして、仙台七夕まつりと関わりがあり、実際に英語を使う機会があるという宮城善意通訳者の会という団体を見つけ、参加を希望しました。

活動は仙台七夕まつりの三日間、仙台駅周辺で外国人観光客にうちわやパンフレットを配るもので、同じグループの高校生 2 人と一緒に歩きながら、質問に答えたり出身国などを聞いて統計を取ったりしました。話しかけるのにはとても勇気がいり、「自分の英語が本当に伝わるのか」「相手が求めている情報をうまく説明できるのか」と不安もありました。自分の英語が伝わり嬉しかった時もあれば、何度もうちわやパンフレットの受け取りを断られ、自分は迷惑になっているのではないかと心が折れそうになった時もありました。しかし、宮城県とゆかりのある観光客と話す機会もあり、ある方は「子どもが宮城県で生まれた」と話してくれました。翌日にもその方々と再会し、顔を覚えていてくれたことがとても嬉しかったです。

三日間を通して外国人観光客が減っていったため、自分の活動の上達を実感することはあまりできませんでしたが、これまでの英語学習の努力が実際に活かせたこと、また今後の学習へのモチベーションにつながったことは大きな収穫だと思います。将来は機会があれば、大学での留学にも挑戦してみたいです。

・仙台駅での、MGGC メンバーの活動の一コマです。

・勾当台公園では短冊の飾り付けが外国人にも人気でした。

・当会の活動が８月９日に河北新報に掲載されました。

掲載日：2025年08月09日，面名：M206X0，記事ID：K2025080900000003500
(C)河北新報社

訪日客再訪へおもてなし

仙台七夕まつり 最終日も活気

（1面に関連記事）

通訳ボランティアに七夕まつりの見どころを質問するウィニーさん（右）

通訳、丁寧な応対に汗

8日閉幕した仙台七夕まつりは、円安などを背景に多くのインバウンド（訪日客）でにぎわった。全国の観光地が訪日客の誘致合戦を繰り広げる中、通訳ボランティアや商店街関係者らは「ホスピタリティーあふれる街に」と再訪につなげるべく接客に汗を流した。

「七夕も楽しみ。牛タンも食べてみたい」。8日午後1時ごろ、JR仙台駅西口に設置された観光案内所で台湾から訪れたウィニー・シーさん（32）が尋ねた。

応対したのは県内の通訳ボランティアでつくる宮城善意通訳者の会（仙台市）のスタッフ。おすすめスポットを英語で説明すると、ウィニーさんは「分かりやすくて助かる」とほほ笑み、街に繰り出した。

学生ボランティアを含む6人が対応に当たった。伊東仁会長（70）は「訪日客に仙台を受け入れてもらうには、快く過ごしてもらう必要がある。丁寧な対応で好印象を持ってくれたはずだ」と話した。

藤崎本館（青葉区）で観光案内や免税手続きを担う「仙台ツーリストインフォメーションデスク」は、平時の約2・5倍に上る1日当たり約50人の訪日客が立ち寄った。運営する「まちくる仙台」は7月、周辺の免税店の特色をまとめた英語表記のカードを作成。文具店、呉服店など16店の商品や営業時間を盛り込み、案内に活用した。

スタッフの小沢香菜さん（39）は「ネットでは見つけられない地元の情報を求めている方も多い。マニアックなポイントも分かりやすく正確に案内するよう心がけている」と話した。

お茶の井ケ田が運営する喜久水庵仙台中央本店（青葉区）は、まつり期間中にも訪日客が詰めかけた。同店によると、抹茶のパックが最も人気で、通常より3倍ほど売れているという。

訪日客の増加に対応すべく、売り場の改善に頭を巡らせるのは後藤新店長（36）。「一目で分かりやすいポップを掲示するなど工夫をして、もっと外国人観光客が利用しやすい店にしたい」と意気込んだ。

（伊藤卓哉、関根梢）

事務局からのお知らせ

40 周年記念パーティについて

先に会長発会員メールでご案内の通り、40 周年記念パーティの開催を企画しました。下記の通り食事会を開催いたしますので、多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

記

開催日時： 10 月 25 日（土）午前 11 時 45 分より

開催場所： キリンビール仙台工場宴会室（レストラン）

内容　　： 120 分飲み放題の会食、10 年間のスライドショーを予定します。

参加費　： 一人　5,500 円

集合など：仙台駅東口代ゼミ前から 11 時に送迎バスが出ます。11 時前に集まってください。

参加申し込み： 9 月末日まで、会長伊東までお願いいたします。

08055542673 までショートメールか gini@gol.com までメールでお知らせください。

ご質問も上記連絡先へお願いいたします。

The
WORLD